

●池田温泉の経営は民間のプロに

●都市計画は必要

窪田弘子
議員

池田温泉ユース

Q

池田温泉は町外の利用者が84%あり、その

利用者に支えられている。「町民の福祉」だけでなく近隣の温泉とも競合・共生して収益を上げてこそ真の池田町の為になる。4月から高齢割引者は250円となりその6割の方は本館へ入られるが本館利用者は前年の8%減。料金を下げれば利用が増えるわけではない。また、議会には諮られなかったが町内の身障者特別割引250円を同じく4月から町外の障害者も対象となった。

選挙のある人（町長・議員）は事業経営より、住民の要望に反応し、任期4年という狭い視野に陥りがちだ。池田温泉が20年先にも栄える為には、毎日現場でお客様と接するプロの経営者が必要ではないか。

A

公共福祉の観点から行政にしかできない特色あるサービスをしていく。

農地は虫喰い状態

Q

池田町の農地は法的にはどこでも宅地変更できる。現在の野放図な土地利用のままでは、優良

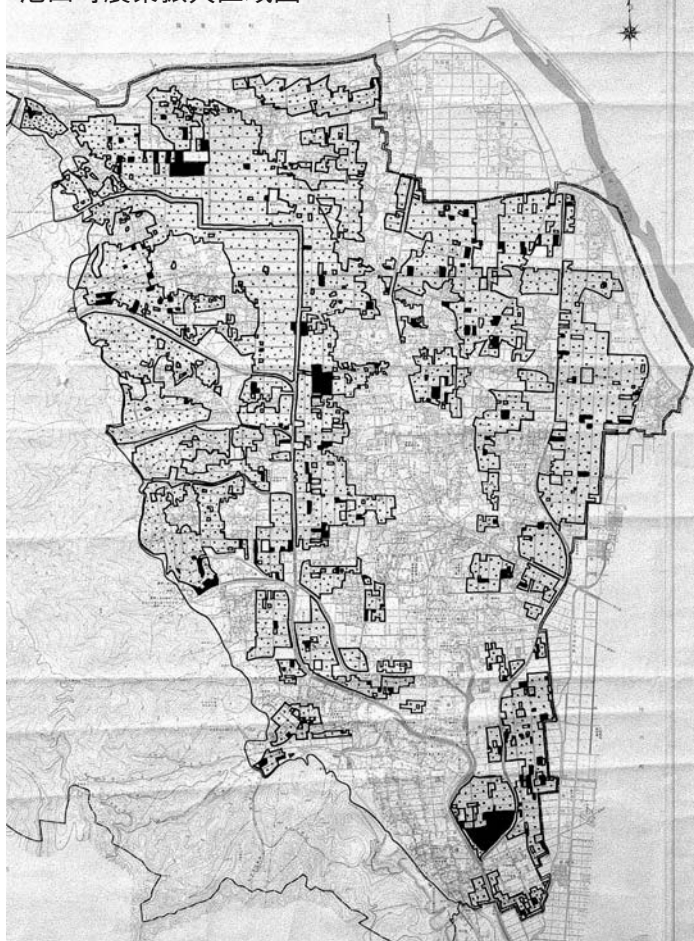
農地は少なくなり細切れになり、これからの集約農業はやりにくい。下水道等社会整備も宅地がバラバラで膨大なお金(税金)がかかる。景観も魅力が失せて、ひいては土地の値うちが下がっていく。どの市も、健全に発展し秩序ある整備ができるよう都市計画を引いて

A

いる。池田町も都市計画の研究をすべきだ。農業委員会に検討してもらっている。過去の流れも考え担当の3課で「農地ゾーン」の保全など検討に入っているところだ。

池田町農業振興区域図

平成18年3月



減ってゆく優良農地（農業振興＝農振）

●●●● 農振農用地域 855ha

■ 10年間（平成8～17年）に宅地変更した所 40ha（4.5%）

□ 農振除外地域 1,443ha